



聴覚に障害のある子どもへの指導・支援

聴覚障害があると 話す場面では こんなことが苦手になります。

聴覚障害があると、主に次のような場面できこえにくさを感じ、困ることが多くなります。
そのため、必要な情報がきちんと伝わらないことが考えられます。

- ・雑音の中での話すこと。
- ・遠くから呼ばれること。
- ・うしろから話しかけられること。
- ・よく似たことばをきき分けること。
- ・2人以上の声をきき分けること。
- ・何かをしながら同時にきき分けること。(例：メモを取りながら話をきく。)
- ・子音をきくこと、話すこと。(例：「さしすせそ」)
- ・「○○が」「○○を」「○○に」を正しく使うこと。
- ・合唱や合奏をすること。 など。



聴覚障害の人が 話す時にしてくれると助かること。

補聴器や人工内耳をつけていても「きこえにくい」「ききもらし」「きき間違い」が起こりがちです。
少しでもそうならないよう、以下のような工夫をしていくことで、会話の手掛かりになります。

◆相手の注意を向けてから話す。

相手の正面にまわってから目を合わせ、相手がこちらに気付いてから話す。

◆何について話すか示してから話す。

視覚的にわかりやすい資料や具体物を、目の前に見せたり、顔の横に持って示したりしながら話す。

◆目で見てわかるものを使って話す。

手話、筆談、ジェスチャーなどの他、絵を描いたり写真を見せたりする。

◆相手が分かるように話す。

話が複雑にならないよう、短い文に区切りながら話す。
正面から口を大きく開けて「ゆっくり・はっきり」話す。



◆伝わったかどうか確認する。

言ったことが正確に伝わったかどうか、きちんと確認するようにする。

※参考文献：『ふしぎだね！？聴覚障害のおともだち』から